

平成29年10月24日

浜北区自治会連合会  
会長 西村 恭一 様

浜北区自治会連合会  
調査研究委員長 渡邊 剛一

### 平成29年度調査研究委員会報告

調査研究委員会の今年度のテーマは、「区内の公園・緑地の現状と課題」です。自治会活動でよく使われる公園や緑地における使い方のマナーや運営の仕方に問題がある、設備や遊具等に不具合が見られることがある等の意見があり、調査研究することとなりました。

メンバーは19名、委員会を4回開催し検討を行いました。

公園は、心身の健康維持増進・子どもの健全な育成・地域コミュニティ活動の場などのほか、防災活動の拠点として活用できるなど多くの機能を有していますが、区内を見渡してみると、浜北森林公園のような大きなものから、公民館脇にあるちょっとした広場のような小さなものまで、様々なものがあります。

これらの公園のうち、浜松市や自治会が管理すべき公園の種類は、①都市公園法に基づく都市公園、②児童福祉法に規定されている施設の児童遊園、③浜松市子供の遊び場設置基準に基づく子どもの遊び場、④自治会等が管理する児童遊園地の4つに大別されます。

最も一般的で、多くの市民が日常的に利用している①の都市公園が、浜北区内には81か所あります。このうち、比較的規模の大きな美蘭中央公園(地区公園)、明神池運動公園(運動公園)、染地台野鳥公園(近隣公園)の3つを除いたその他の比較的小規模の公園は、街区公園という種類に分類されています。

これら我々の身近にある街区公園は、大きさや設備のほか、設置目的やテーマ等その形態も千差万別であり、取り組むべき課題もまちまちであるため、対応策の検討・実施については各自治会に委ねることとし、委員会では美蘭中央公園と染地台野鳥公園の2公園について、その現状と課題を探ってみました。

(1) 美蘭中央公園は、遠州鉄道美蘭中央公園駅に隣接し、浜北副都心の中央地域と至近の距離にあり、利便性の高さがものを言い、お年寄りや家族連れなど常日頃から多くの市民が訪れています。テニスコートやバスケットコートもあるため、若者の利用者が多いことも特徴です。また多目的広場のほか花見広場など数種類の広場も人気があり、各種レクリエーションやお花見・紅葉狩りなどにも沢山の市民で賑わっています。

残念なのは、折角のお花見・紅葉狩りを楽しむには、桜や楓の本数が少ないということ及び来園者用駐車場が少ないことです。来園する市民が十分に満足し、更に多くの市民が足を運んでくれるよう、桜と楓の充実並びに駐車場増設を市当局に要望したいと思います。浜北副都心のにぎわいづくりに繋がるものと思います。

(2) 染地台野鳥公園は、浜北新都市(きらりタウン)の一角に位置し、「自然環境の復元と市民への自然学習、地域コミュニティーの場の提供」をテーマとして、新しい街づくりと合わせて整備が進められているところです。

きらりタウンは、新しい企業や工場の進出のほか、すでに多くの市民が居住し、新都市として大きく躍動しております。野鳥公園は緑が豊かで広場も広く、家族連れで賑わっていますが、特に明るいうちの子供たちの声が多いのが特徴です。周囲のベンチには子供たちの遊ぶ様子を、目を細めて笑顔で見ているお年寄りの姿も見られ、正しくきらりタウンの憩いの場となっています。

我々が感じるこの公園の課題は、ゴミと雑草の管理です。

メイン広場とその周辺は、公園愛護会の人たちによる草取り・清掃活動がなされており、綺麗な状態で利用されていますが、散策路や広場以外のあちこちに設置されているベンチの周囲に、ペットボトルや空き缶、紙くずなどが散乱しているのは、非常に残念です。広場に比べ利用者がやや少ない部分ですが、見落としのないように管理をお願いします。

また、自然環境の復元をテーマとする公園ですから、公園全体に多くの樹木や草花が生い茂っているのですが、散策路を歩いてみると、雑草に覆われて通行に支障のある場所がかなりの箇所あります。市当局が年に4回(5・7・9・11月)定期的に草刈りを行っているとのことですが、不十分であると言わざるを得ません。毎週行っているというゴミ拾い清掃時に散策路の雑草の状況も把握できるわけですから、季節や植物の生育状況等現場を確認の上、より多くの市民が気持ちよく利用できる環境づくりを検討して頂きたいと考えます。

もう一つの問題点は、ビオトープの中に小川がありますが、水が流れておらず、水溜り状態で汚く澱んでいることです。子供たちが中に入って遊べるような作りになっていますが、これでは健康や安全の面で不安があります。折角のビオトープですから、是非水が流れるように改善されたく、要望いたします。

以上